

いつまでも家庭・地域から信頼され続けるために

ちょっとした気配りによって、いつまでも家庭・地域から信頼され続けることができます。以下の点をチェックして、積極的な情報発信をしていきましょう。

チェック

1 「学校としての願い」を伝えるために適切な方法で情報発信をしましょう。

- 「Plan」で明確にした「学校としての願い」を家庭・地域に伝えるために適切な方法か、何か工夫できることはないかなどを検討してから情報発信をしましょう。

【具体的な例「修学旅行の様子を保護者に紹介する場合」】

- ・子どもが楽しく活動していることを伝えたい →リアルタイムの子どもの姿をWebページで
- ・旅行中に保護者を安心させたい →子どもの健康状態や急な日程変更をメール配信で
- ・旅行を通して子どもが成長したことを伝えたい →旅行の感想やエピソードを学年・学級通信で

チェック

2 家庭・地域を混乱させないように、情報発信の方法を整理しましょう。

- 「学校からの文書が多すぎて、何が大切かわからない」という声が聞こえてきたり、発信する情報が食い違っていて、「どれが本当なのか」という問合せが寄せられたりすることがあります。内容ごとに情報発信の方法を整理することで混乱は避けられるのではないのでしょうか。

【内容ごとに情報発信の方法を整理する具体的な例】

- ・学校経営方針や校長の思いは**学校通信**で
- ・学習予定、学年行事のねらいや連絡、子どもの頑張りは**学年通信**で
- ・授業における子どもの姿、子どもの成長や担任の思いは**学級通信**で
- ・日々の出来事や子どもの活躍は**Webページ**で
- ・学校からの緊急連絡は**メール配信**で

よく分かるわ。



チェック

3 大切な情報が確実に伝わるように工夫しましょう。

- 情報が確実に家庭に伝わるよう、子どもに通信や案内文書の大切さを理解させましょう。
- 家庭・地域の状況を考えて、どのような方法が適切か検討し、各学校で工夫しましょう。
- 情報が伝わっているか、確認する方法を考えましょう。

【具体的な例】

- ・外国人児童生徒の保護者向けに、母国語の通信や案内文書を用意する。→事例2
- ・子どもや教職員が、地域の方々へ通信や案内文書を直接届ける。→事例5
- ・学校への提出文書を配付する時は、あらかじめメール配信にてその主旨を伝える。→事例10

チェック

4 個人情報の扱いには注意しましょう。

- 子どもの写真を掲載する際には、次のような気配りをしましょう。
- ・子どもの顔と名前を一緒に掲載することは避けましょう。
- ・顔がアップされた写真は避け、多くの子どもが写っているものを使用しましょう。
- ・保護者の了解を得てから掲載しましょう。



【子どもが特定されない写真の掲載】

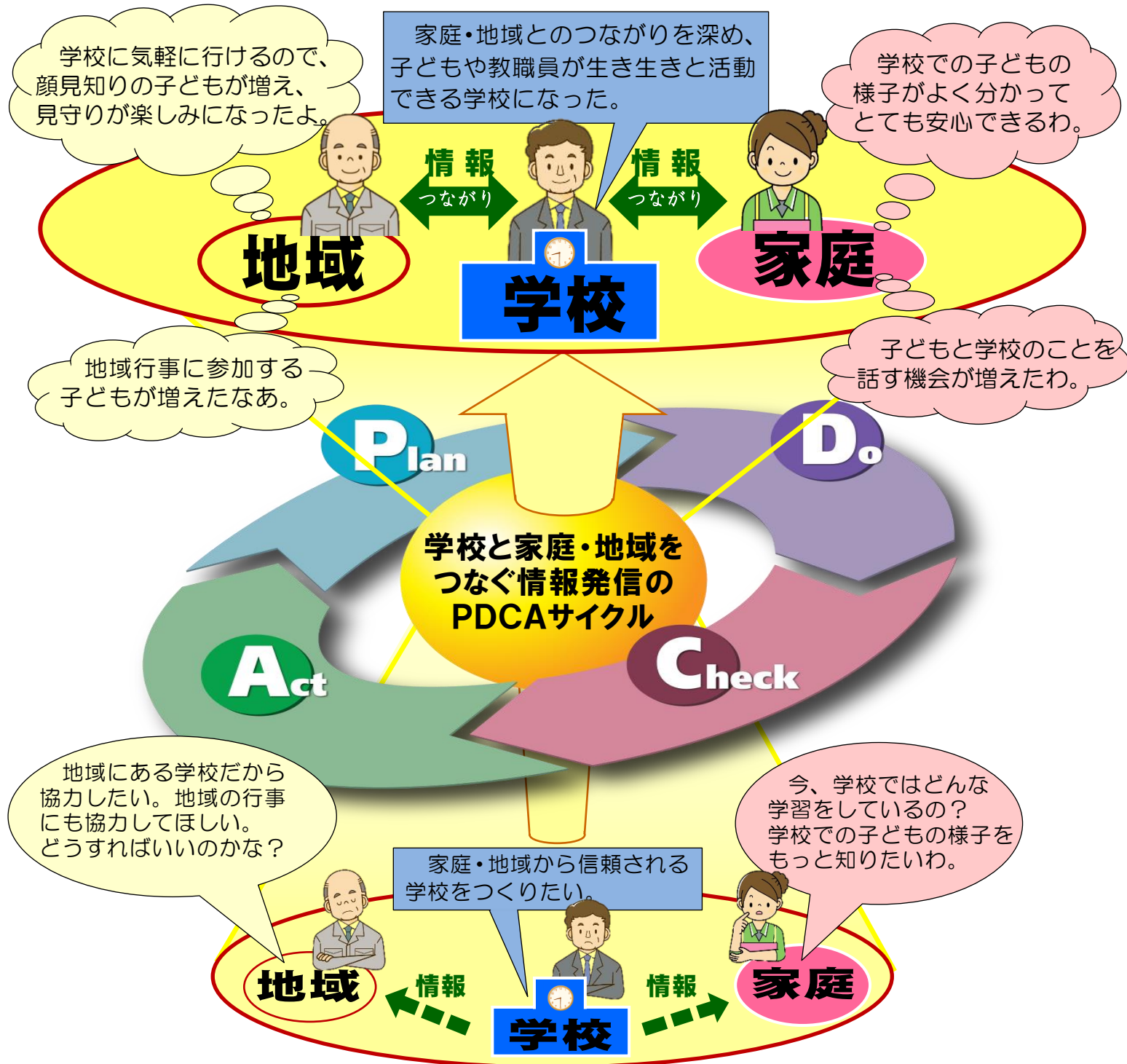
チェック

5 著作権の侵害には注意しましょう。

- 特に、Webページに掲載する際には、次のような気配りをしましょう。
- ・インターネット上に掲載されている写真、イラスト等は、第三者の著作権を有しているものがほとんどなので、使用の可否を確認したうえで、掲載しましょう。
- ・新聞や雑誌などの記事にも著作権があります。引用の範囲を越えて掲載すると著作権の侵害に当たるので注意しましょう。

「学校からの情報発信の在り方」リーフレット

子どもの笑顔を家庭・地域に届けよう



愛知県の小・中学校では、積極的な情報発信が行われています。とりわけ、「子どもの笑顔を届けたい」という強い思いを持って情報発信をしている学校は、家庭・地域とのつながりを深め、子どもや教職員が生き生きと活動する学校をつくり上げています。

私たちは、『学校と家庭・地域をつなぐ情報発信のPDCAサイクル』を用いて自校の情報発信の在り方を振り返ることで、より一層、家庭・地域から信頼される学校となると考えました。このリーフレットが、効果的な情報発信の在り方を考えるきっかけとなることを願っています。

愛知県義務教育問題研究協議会
愛知県教育委員会

『家庭・地域をつなぐ
情報発信のPDCA
サイクル』って何？

Plan
～計画する～

「学校としての願い」を明らかにして、情報発信の計画を立てよう

学校や地域の現状から、「学校としての願い」を明らかにし、「家庭・地域とのつながりを深めるために」という目的をもって、情報発信の計画を立てましょう。

【「学校としての願い」の具体的な例】

- ・家庭・地域の方々に、**学校での子どもの姿**を見てほしい→事例1
- ・**外国人児童生徒の保護者**にも確実に情報を伝えたい→事例2
- ・**家庭・地域からの協力**を得て、健やかな子どもを育てたい→事例3
- ・**担任の思いや子どもの活躍する姿**を伝えたい→事例4
- ・**地域の多くの方々に来校**してほしい→事例5
- ・**学校のサポーターを増や**したい→事例6
- ・**“子どもの輝く姿”**を家庭・地域にタイムリーに伝えたい→事例7
- ・学校の話で、**親子のコミュニケーション**を広げたい→事例8
- ・**子どもの学力や学習習慣**を向上させたい→事例9
- ・**子どもを安全に登下校**させたい→事例10
- ・家庭・地域の方々の**反応**をすぐ知りたい→事例11



【通信による親子のコミュニケーション】

Point 家庭・地域とのつながりを深めるために、学校は何を伝えればよいのか、学校が求められていることは何かを検討した上で、「学校としての願い」を明らかにしましょう。

Do
～実行する～

発信する内容に合った適切な方法で積極的に情報発信しよう

通信や案内文書、授業参観などの学校公開や懇談会、メール配信やWebページ等、情報発信の方法はたくさんあります。しかし、どの方法にも長所・短所があります。「学校としての願い」を伝えるために必要な内容を、その内容に合った適切な方法で積極的に情報発信しましょう。

【発信する内容に対する情報発信の方法の具体的な例】 ※ 適切と考える情報発信の方法を○で示します。

情報発信の方法	通信 案内文書	授業参観 懇談会	Web ページ	メール 配信	訪問 電話
子どもの輝く姿（授業・行事）	○→事例4	○→事例1	○→事例7		○→事例5
学校の教育方針・活動のねらい	○→事例3	○	○		
学校からの連絡（行事・注意喚起）	○→事例2		○→事例8	○	
子どもの実態（学力・生徒指導問題）	○		○→事例9		○
学校からの緊急連絡（安全・安心情報）	○			○→事例10	○

Point 全ての方々に伝わる完璧な情報発信の方法は存在しません。より多くの方々に、より確実に伝わるよう、各学校で情報発信の方法を工夫しましょう。



【計画的な授業参観の設定】

情報発信の在り方を振り返り、次の情報発信に生かそう

受け手の反応から、実施した情報発信の方法が有効であったか、確実に家庭・地域に届いていたかなどを振り返り、次に情報発信するとき、どう改善すべきかを考えます。そして、より有効な情報発信の在り方を模索していきましょう。

【次への生かし方の具体的な例】

- ・Webページで学校公開日の案内をしたが、地域の方々の参加をもっと増やしたい。今度は、案内を地区の回覧板で回してもらおう。



【児童生徒が通信等を読む時間の設定】

- ・「子どもがどんな勉強をしているか知りたい」という感想が多く寄せられた。授業風景をWebページに掲載しよう。
- ・保護者から「毎週、学年通信が発行されるので学校の様子がよく分かる」という意見をもらった。今後も継続していこう。

Point 不十分な点ばかりを反省するのではなく、良かった点にも着目して、「そのまま持続しよう」、「更に良くしよう」という思いを持って、次の情報発信に生かしましょう。

発信した情報に対する受け手の反応を確かめよう

学校は、発信した情報が家庭・地域の方々に確実に伝わり、活用されているか、受け手の反応を確認しましょう。

【受け手の反応を確認する具体的な例】

- ・授業参観や懇談会、学校行事に参加した保護者や地域の方々から感想を聞く。
- ・地域の行事等で顔を合わせたときに、積極的に尋ねる。
- ・PTAの集まりや地域懇談会の折、学校の情報発信についての意見交換ができる場を設ける。
- ・Webページのアクセス数を調べる。
- ・学校評価のアンケート結果を利用する。
- ・行事後に即時アンケートを実施する。→事例11



【学級懇談会における通信等の感想収集】

Point 保護者からモニターを募り、学校通信やWebページの感想をもらうという方法もあります。各学校で様々な方法を試してみましょう。

Act
～改善する～

Check
～確かめる～

情報発信する前に、チェックすることは？

